

南砺市桜ヶ池エリアにおけるプレイスメイキング ～子ども向けイベント〈なんとで〉の企画・実施～

団体名 ● 石川ゼミナール(3年) / 代表者名 ● 石川美澄 (経済学部経営学科・准教授)

はじめに

富山県南砺市桜ヶ池エリアにある南砺市クリエイタープラザ(以下、桜クリエ)は、東海北陸自動車道の城端SA(ハイウェイオアシス)に隣接する複合公共施設であり、その施設管理は一般社団法人地域発新力研究支援センター(以下、PARUS)が担っている。桜クリエは、高速道と一般道からアクセスできることや、現在スマートインターチェンジの開通工事が行われていることから、移動・観光・交流の拠点的な場所として期待されている。また、2023年1月に株式会社ゴールドウインが、同エリアでの〈PLAY EARTH PARK〉の造園・事業構想を発表し、話題性もある。

石川ゼミナールでは、研究テーマ「移動・交流の視点から〈まちの拠点的な場所〉の諸問題を考える」を活かして、2021年度からPARUSと連携し、桜クリエならびに桜ヶ池エリアのプレイスメイキングに取り組んでいる。2022年度の活動目標は、夏休み中の子どもたちに楽しい思い出を持ち帰ってもらうための場づくりとし、具体的には子ども向けイベント〈なんとで〉を企画・実施した。

活動内容

活動当初は、桜クリエだけでなく、桜ヶ池エリア全体の賑わい創出につながる企画内容を検討していたが、学生同士やPARUSとの議論を重ねた結果、2021年度と同様に桜クリエのピロティを使用することとなった。それゆえ、上記の活動名と実際の活動内容には若干のズレがある。

表1はイベント〈なんとで〉の概要をまとめたものであり、写真1はイベントポスターである。本イベントでは、桜クリエのピロティを利用してイワナつかみ体験やテントへのお絵描き体験、オリジナルキャラクターの4コマ漫画のセリフを考える遊び、ハンモック体験等を提供した。また、おなじみのかき氷や射的、スーパーボールすくいのブースも設けた。さらに、石川・富山のキッチンカー事業者に出店を依頼した。

表1：イベント〈なんとで〉の概要

項目	内容
開催日時	2022年8月20日(土)、21日(日) 10:00~16:00 (20日は荒天のため14:30繰上終了)
開催場所	桜クリエのピロティとその周辺
告知媒体	石川ゼミならびにPARUSのInstagramとTwitter、ポスター掲示等
受付方法	予約不要。コロナ感染拡大防止のため、当日会場で受付票に氏名等を記入してもらった。
体験内容	イワナつかみ体験や手作りテントへのお絵描き体験、射的等(写真1参照)
体験料	体験内容によって異なる(無料~1,000円)
参加者数	正確な人数は不明。2日間で延べ約150名以上。
その他	開催期間中はイベント保険に加入し、イワナつかみに限ってレクリエーション保険に加入。

出所：筆者作成



写真1：イベント〈なんとで〉のポスター

出所：竹口陽平さん(経営学科3年)によるデザイン、筆者による編集。

成果、結果の考察

イベント初日は荒天のため終了時刻を繰り上げたが、2日目は午後から天候にも恵まれ、目立ったトラブル等もなく終了できた。

受付票を見る限り、南砺市内からの参加者が子ども・大人合わせて50名以上だった。近隣市町村からの参加者の中には、桜クリエに初めて足を運んだ方々も多く、施設の認知度向上や来訪のきっかけづくりに貢献できた。また、サービスエリア横という地理的特性から、岐阜県や愛知県、長野県、大阪府等にお住まいの方々の参加もみられた。

昨年度の活動後に課題として挙げていた「通りすがりの人が〈面白そう〉と思って即興的に参加できる場」や「参加者が関われる余白」は、一定程度実現することができた。さらに、一部の参加者からは「私たちの団体とも協働できないか」というお声をいただいた。



写真(左)：自主制作した「イワナの捌き方」の映像設定中
写真(右)：イワナつかみ体験に挑戦する子どもたち



写真(左)：かき氷ブース(学生による自主企画)



写真(右)：子どもたちに大人気だったスポンジ銃を使った射的



お絵描きテント(写真中央奥)が並んだピロティ
(一部加工あり)

連携相手の PARUS からは、イベント実施に向けて、コロナ禍特有の難しさや子ども向けイベントならではの留意事項等、様々な点で乗り越えるべき課題は多数あったが、事前の打ち合わせや下見、試作・実験を重ねたことが当日の盛況につながったというご意見をいただいた。また、「桜クリエとしては、とても賑わっていて、子どもたちも楽しそうだったので大変ありがたかった」というお言葉もいただいた。

今後の課題

昨年度の課題として挙げた正課(授業)と正課外(地域貢献活動)の有機的なつながりについては、多少の道筋が見えてきたように思われる。一方で、イベント開催という方法以外での地域貢献活動には至っておらず、この点は引き続き課題として残っている。今後、この課題を改善できるような取り組みについて、学生ならびに連携先と議論しながら活動を続けていきたい。

【謝辞】

石川・富山県内の事業者の皆様、ポスター掲示等にご協力いただきました皆様、PARUSのスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。